

個別課題についてマッピング・テンプレートを活用した見える事例検討会 一群馬県桐生市一

地域ケア会議の開催まで	アルコール依存のAさんに対し、服従的に介護してきた50歳代の長男。共依存の関係にある。Aさんは常に威圧的で、長男は昼夜問わないAさんからの要求で、うつ状態となり医療保護入院となった。その後Aさんも寂しさから胸苦しさを訴え入院となった。早期に退院を迫られたが、要介護3で常にアルコールを飲もうとするAさんの独居生活は難しく、しかし受け入れてくれる施設を探すことも困難。家庭環境の劣悪さや近隣住民の心配も重なり、地域を含めて課題を共通理解し、対応検討することを目的に地域ケア会議を開催した。
主 催	桐生市東地域包括支援センター(桐生市社会福祉協議会)
会 議 の 目 的	関係者の共通理解を深め、解決の糸口を探る。参加者の援助技術を高める。地域のネットワークを構築する。
会議の方法と利点	マッピング・テンプレートを活用した「見える事例検討会」方式(クローズ) 利点①参加者がマッピング・テンプレートに集中でき意見交換を活発に行うことができる。 ②事例について客観的に見ることができる。 ③全体像を把握しやすく、今まで見過ごしてきた課題を発見することができる。 ④事例提供者の負担が少ない。
参 加 者	①民生委員 ②市長寿支援課 保健師 ③市福祉課 保健師 ④訪問介護 サービス提供責任者 ⑤通所介護 サービス提供責任者 ⑥障害者相談支援室サポート相談員 ⑦認知症疾患医療センター相談員 ⑧担当介護支援専門員 ⑨包括支援センター 保健師・主任介護支援専門員
ファシリテーター	①桐生市南地域包括支援センター 主任介護支援専門員 ②桐生市東地域包括支援センター 社会福祉士
結 果	Aさんの支援者、民生委員、長男の支援者、行政関係者等が集中して意見交換したことで、見えなかった課題があきらかになり、支援の方向性を確認し共通認識を持つことができた。

見え検マップ

